



同志社大学

DOSHISHA UNIVERSITY
Faculty of Psychology

心理学部 父母会会報



No. *10*

June.
2014

私たちの学校をもっとも魅力的なものにするためには、
ほかの学校に遅れをとらないこと、
それどころかさらに先を行くことが、絶対に必要です。

―『新島襄の手紙』 岩波文庫 154頁



良心碑



今出川チャペル(礼拝堂)



Contents

● ご挨拶	4
● 父母会ニュース	6
● 2013年度決算・2014年度予算・2014年度事業計画	7
● 都道府県別会員数・入試別入学者数	8
● 学生レポート1 「The 新入生」	9
● 学生レポート2 「ゼミ探訪」	10
● 就職情報1 「2013年度就職状況」	12
● 就職情報2 「第1部 卒業生講演」	14
● 就職情報3 「第2部 卒業生・教員によるパネルディスカッション」	16
● 教員メッセージ・新任教職員紹介	19
● わたしの学生生活	20
● ご父母から	22
● 学部インフォメーション	23

DOSHISHA UNIVERSITY

Faculty of Psychology



ご挨拶

時代は変わっても…

紫陽花が古都の街並みを彩る季節になりました。平素は、心理学部父母会の活動にご理解とご協力を賜り、厚くお礼を申し上げます。



先日、地方自治体が学習塾と連携し、公立小学校で官民一体の教育を実施する、という報道を目にしました。学習塾などとは無縁で、毎日暗くなるまで外遊びをしていた自分の小学校時代を思うと、教育の在り方がこの30余年の間に遂げた変貌に驚きさえ感じます。

教育文化の変容は大学も然り、受講登録のシステムひとつとっても親世代には馴染みがないものですし、就職の動向や多彩な課外プログラムなどは、知る機会を逸すればチャンスの神様との出会いを逃したまま、ご卒業を迎えることになるかもしれません。

そのようなご父母同士の情報共有の場、また、学部とご父母との連携を図る場として、心理学部父母会は存在します。会報誌上での情報提供はもちろん、年に数回、東京をはじめ各地で地方懇談会を開催し、先生方と直接お話ができる機会も提供させていただいております。お子様の学生生活をちょっと覗き見…そんな気軽な気持ちでご参加いただければ幸甚に存じます。

時代が変わっても、親が子を思う気持ちは普遍的。時に寄り添い、時に包み込み、時に背中を押しながら、気が付けばどんな時もわが子の幸せを願っている…父母会の活動が、ご父母の皆様の思いを形にする一助になれば、これほど嬉しいことはございません。

最後になりましたが、心理学部の先生方、事務局の皆様方におかれましては、お忙しい中いつも父母会の活動にひとかたならぬご支援を頂戴し、誠に有難うございます。心より感謝を申し上げます。

心理学部父母会長 藤田 直美

執行猶予期間としての大学生活

この記事を読んでくださるご父母の皆様は「猶予」という言葉を聞いて何を思いうかべられるでしょうか。広辞苑によれば「①物事を疑って容易に決しないこと。ぐずぐずして決めかねること。ためらうこと。②実行の日時を延ばすこと。」という意味が書かれており、どうもあまり良い意味とは感じられませんね。

猶予という言葉は、「モラトリアム」の日本語訳です。猶予をモラトリアムという言葉で表現すると、多くの皆さんが「モラトリアム人間」という言葉として聞いたことがあって、どちらかというと、人生の中で宙ぶらりんで主体性のない状態と感じるかもしれません。

モラトリアムは、心理学者E. H. エリクソンが提唱した概念で、社会に出て様々な大人としての役割を引き受け、仕事をしたり責任を持ったりするまでの「執行猶予」の時間です。まさに大学生であることは、このモラトリアムの時期にあるわけです。

解釈の仕方によっては、大人としての義務を負っていない無責任な時代であるにとらえることもできるかもしれません。しかしこの時期は、むしろ様々な責任を免除されながらもその中で大人になることを模索している時間とも言えます。エリクソンはモラトリアムを「役割実験のための比較的自由的な活動空間」と表現しています。これは自分がどのような大人になろうとするかを実験的に、つまり体験しながら模索する自由のある場所と表現することができます。

大学生であることは、勉強したり、クラブ活動をしたり、アルバイトをしたり、様々な経験ができます。その中で自分が大人としてどのように生きてゆくか、自分の生きがいとは何か、そういったことを体験的に学ぶことができる時間です。その中では失敗をすることもあるでしょう。しかし、失敗を通して自分がどのように行動することで失敗を回避できるか、あるいは自分自身は、こういうことを得意としてこういうことを苦手としているということを理解できたりします。

体験して学んでいくことはエネルギーも時間も必要なことですが、このようなことが自由にできるのは大学生活の時間だけです。どうぞご父母の皆様もこの冒険する気持ちを応援してあげていただきたいと思います。



心理学部長 佐藤 豪



● 父母会ニュース

2014年度父母会総会報告

5月24日(土)、夢告館302教室において、2014年度心理学部父母会総会が開催され、あわせて行った就職講演会・懇親会ともに、父母・役員・教員を含む84名の方々に出席いただきました。

総会では、佐藤学部長のご挨拶、主催者紹介(役員・参与)に続き、「[2013年度決算・事業報告][2014年度役員(案)・予算(案)・事業計画(案)]」について、それぞれ審議の結果、承認されました。就職講演会では、第一部 卒業生(一般企業就職1名・臨床心理士1名)による実体験の講演、第二部 卒業生と就職委員の教員も交えて、主に父母や学生の質問回答を中心にグループディスカッションを行いました。(詳細は、14～18ページに掲載しています。)懇親会では、地方懇談会でも交流しやすいように参加者のお住まい地区ごとにテーブルを囲んでいただき、教員や父母同士が学年問わず終始和やかな時間を過ごしていただけたようでした。



定期総会



懇親会

講演会参加者アンケートから一部抜粋

- <父母> ● 社会人経験豊富な方と、より学生に近い経験の方との話を聞いた事はとても良かった。心理学部というある意味専門性が高いところで学んでいるだけにそれを生かしてもらいたいが、現状の細かいところまで聞けてよかった。
- 大学で子供達が学んでいる様子を具体的に教えていただけると有難いです。
- <学生> ● カウンセラーという仕事の不安定さに抽象的に不安を抱いていましたが、自分の中で具体的なイメージをつくることができました。
- どのように臨床心理士の道へ進んだのか、準備の仕方がわかってよかった。
- 人事の方の本音を聞いて、実際に話を聞いてみることの重要性を感じました。

2014年度心理学部父母会役員 (敬称略)

【父母役員写真】



(後列)長谷部・友成・達知・藤田・乳原
(前列)橋本・菊池・相川・村岡

【役員】

- | | |
|-----------------|------------------|
| (会 長) 藤田 直美(3年) | (副会長) 乳原 和美(3年) |
| (副会長) 達知恵美子(2年) | (監 事) 村岡 順子(2年) |
| (委 員) 相川 章代(3年) | (委 員) 友成 由美(2年) |
| (委 員) 橋本千賀子(2年) | (委 員) 長谷部巳起子(1年) |
| (委 員) 菊池 裕嗣(1年) | |

【参与】

- | | |
|------------|-------------|
| 佐藤 豪(学部長) | 神山 貴弥(教務主任) |
| 畑 敏道(学生主任) | 中谷 隆志(事務長) |

● 2013年度決算・2014年度予算

(2013年4月1日～2014年3月31日)

(単位:円)

	項 目	2013年度		備 考	2014年度
		予 算	決 算		予 算
収入の部	前年度繰越金	2,702,138	2,702,138		2,734,657
	会 費	3,600,000	3,999,000	年額6,000円(学部生父母600名算出)	3,600,000
	会合費	100,000	49,000	1,000円(懇親会参加者100名算出)	100,000
	合計	6,402,138	6,750,138		6,434,657
支出の部	会報発行費	1,200,000	832,650	年2回発行	1,200,000
	父母懇談会費	600,000	435,321	父母会懇談会開催(会場使用料、湯茶代など)	600,000
	学生援助費	100,000	0	見舞金等	100,000
	学術研究助成費	300,000	110,432	講演会補助等	300,000
	教育補助費	500,000	221,188	学生向け教育支援(図書購入、セミナー参加、施設見学など)	500,000
	謝 礼	100,000	46,000	会報誌原稿に対する謝礼、学生アルバイト費	100,000
	集会費	150,000	52,180	役員会、参与会他	150,000
	人件費	800,000	800,000	職員人件費補助	800,000
	事務費	600,000	890,332	印刷費、郵送費(総会・懇談会案内、会報・成績発送費)	1,000,000
	旅費・交通費	300,000	247,150	地方懇談会など旅費交通費(役員・教職員)	300,000
	雑 費	350,000	380,228	記念品、郵便振替手数料	500,000
	予備金	1,402,138	0		884,657
	次年度繰越金	—	2,734,657		—
	合 計	6,402,138	6,750,138		6,434,657

● 2014年度事業計画

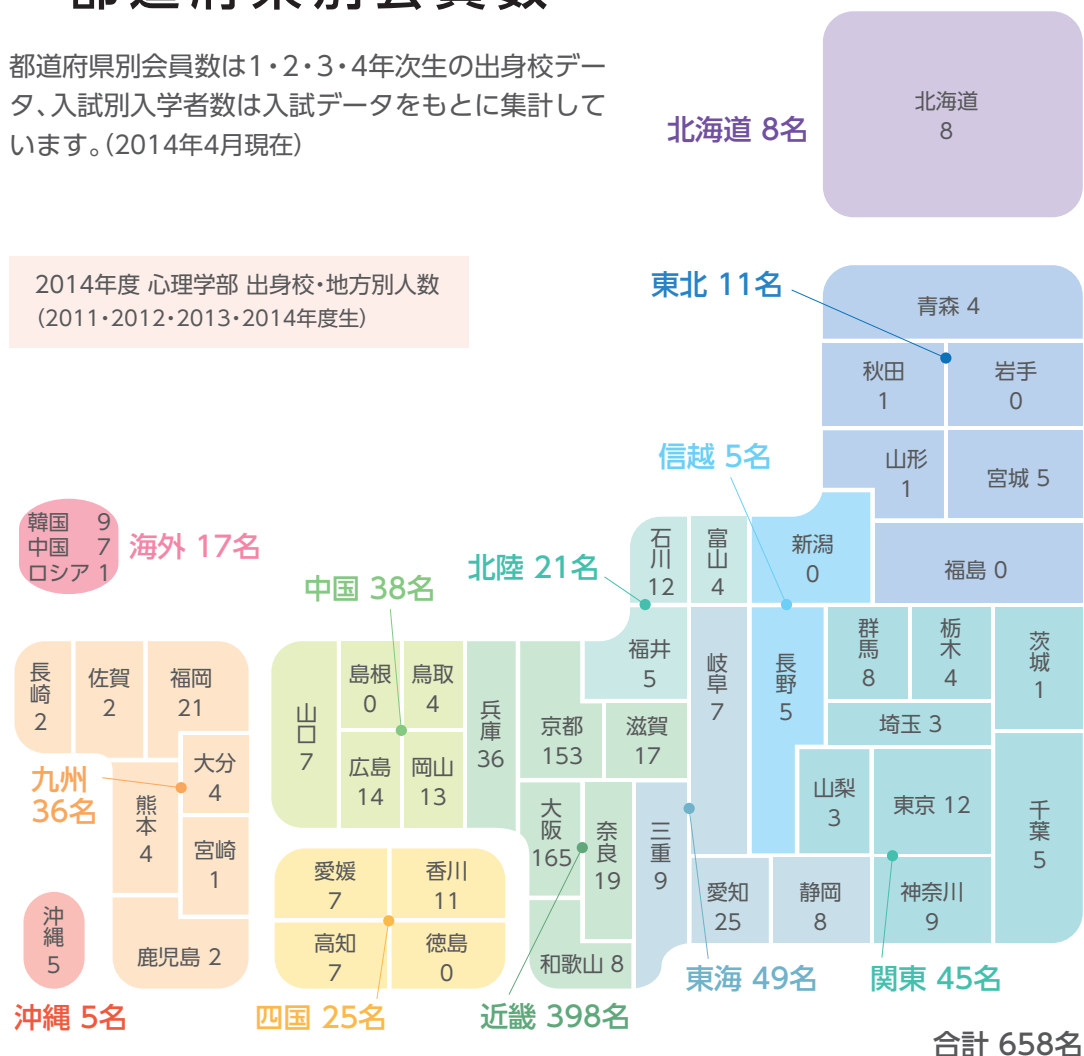
日 付	行 事	場 所
2014年4月1日(火)	入学式・新入生父母交流会	京田辺キャンパス
5月24日(土)	役員会 総会(就職講演会・懇親会)	京田辺キャンパス
6月	父母会報No.10(春号)発行 および成績通知書 発送	
6・7月	地方懇談会(1dayキャンパス)	仙台(6/1)、福岡(6/22)、名古屋(6/29) 金沢(7/6)、東京(7/20)
11月1日(土)	役員会 京都地区懇談会(同志社クローバー祭)	京田辺キャンパス
12月	父母会報No.11(秋号)発行 および成績通知書 発送	
2015年1月	参与会	
1月31日(土)予定	卒論ポスター発表鑑賞会	京田辺キャンパス
3月	役員会	



● 都道府県別会員数

都道府県別会員数は1・2・3・4年次生の出身校データ、入試別入学者数は入試データをもとに集計しています。(2014年4月現在)

2014年度 心理学部 出身校・地方別人数
(2011・2012・2013・2014年度生)



● 入試別入学者数

心理学部 入学者数	入学 定員	一般 選抜 入試	大学入試 センター 利用入試	推薦入学					AO 入試	留学生 入試	3年次 転・編入	転学部	合計	総計
				公募制		指定校制	法人内 諸学校等	キリスト教主義 学校連携 ネットワーク						
				自己推薦	スポーツ									
2014年度	150	68	3	7	5	14	40	5		2			144	658
2013年度	150	100	7	8	6	13	40	5		3			182	
2012年度	150	78	10	8	6	16	40	5		5	1		169	
2011年度	150	85	1	8	6	12	39	4		7	1		163	



4月1日入学式が執り行われ、1年次生144名、3年次転入生1名が入学しました。その後すぐ、4月12日～13日新入生歓迎オリエンテーション合宿が行われ、研修を通じて心理学の心得を学び、スポーツ活動を通じて教員や同級生との交流を深め、大学生としての最初の第一歩を踏み出しました。

そして、本格的に授業も始まった新入生にいまの気持ちを聞いてみました。



新入生歓迎合宿で得たもの

心理学部心理学科1年次生

阿久津 奎さん

「おやつを持ってこない人は電車に乗せません！」先生がいったこの言葉に衝撃を受けました。

同志社大学心理学部では毎年、新入生同士や生徒と先生の交流を目的とした新入生歓迎合宿を行っています。

合宿一週間前くらいに行われた説明会ではわくわくしていたのと同時に、緊張と不安を感じていました。心理学部の合宿というくらいなので、とても難しい勉強や実験をするのではないかと思います、ついていけるか心配になっていたからです。

しかしながら、それらはすぐに消え去り、早く合宿に行きたいという気持ちが倍増しました。

「見知らぬ人と親睦を深めるにはフード・シェアリングが効果的です。従って皆さんは必ずおやつを持ってきて下さい。おやつを持ってこない人は電車に乗せません！」と先生が言った瞬間、大学生になった実感と共に心理学部で4年間頑張れることへの喜びが湧いてきました。



桜の下での決意と共に

心理学部心理学科1年次生

上杉 南さん

桜の下をくぐってからおよそ一ヶ月。ようやくせわしい毎日に慣れてきて、周りの景色が目に入るようになってきた。

講義、アルバイト、サークル…。起こること全てが新鮮で面白く、毎日が一瞬で過ぎていく。そんな中でも、自身の目標を見失わないようにしたいものである。私が心理学部に入ったのは、将来臨床心理士の資格を取り、カウンセラーになりたいからだ。

思い返せば私も、中学高校と友人関係や自己のことで悩み、苦しみながら学校に通っていた。自分自身を孤独に感じ、家族と衝突したことも幾度もあった。そんなとき、誰かに相談することができていれば、何

か変わっていたのではないかと思います。同じように悩む学生の手助けをしたい。それが心理学をやろうと思った最初の一步である。

合宿当日は僕の期待以上に楽しかったです。実験班にわかれてのスポーツ大会、おいしいバイキング、友達との夜更かしなど様々なイベントがありましたが、中でも最も印象に残っているのは班対抗のクイズ大会です。

これは、先生方が出す心理学に関するクイズに答えるというものでした。

まだ心理学について全くといっていいほど知識が無い僕にとって、心理学のどんな分野がどのようなことを研究しているのか知る機会は今までなかったのですが、様々な分野に関する楽しく、わかりやすいクイズで心理学とはどのようなものなのかを教えてくださいました。先生方の計らいはとて有難かったです。

また、班に付き添ってくださった院生の方もとても親切で、もし僕が院生になって新入生の面倒を見ることになったら、同じように親切にしてあげようと思いました。

心理学部新入生歓迎合宿を通して、たくさんの友達、先生への信頼感、大学生としての自覚などこれから宝物として大切にしていかなければならないものをたくさん得ることができました。

これらの宝物を壊さないように、そしてもっと大きなものにできるように、同志社での大学生活を一生懸命に過ごしてゆこうと思います。

だが、そう志して入学したものの、やはり人間関係には悩むことも多い。見知らぬ場所、見知らぬ人と一から人間関係を確立し、自分の居場所を自分で作っていかねばならない。居場所を作ることというのは難しい。自分を表現し知ってもらい、認めてもらうこと。相手のことを知り、認めること。それを積み重ねて関係を作っていくのである。

そこには当然不安がある。だが幸いなことに、今の私は出会いに恵まれ、学部やサークルに心許せる友人もできた。そして、そうして悩んだ経験も、将来の糧になることだろう。

そうした仲間達と切磋琢磨し、自分自身を深め知識を身につけ、あのとき決意した自分の未来へ、一歩一歩進んでいきたい。



4年次生のゼミ紹介

杉若 弘子ゼミ

(専門:行動臨床心理学・パーソナリティ心理学)



成長を感じられるゼミ

心理学部心理学科 4年次生

舂井 達郎さん

大学4年次生になるにあたりゼミに所属することになるのですが、私は杉若ゼミを選びました。私を含めゼミのメンバーは12人(男子8名+女子4名)いるのですが、非常に個性的な人々が多いゼミとなりました。自分のやりたいことや目標が明確にある人が多いため良い刺激を受けます。

杉若ゼミでは行動臨床心理学を扱っており、行動の促進と抑制といったセルフ・コントロールやパーソナリティ及びそれを測定する様々な尺度に着目しています。私が本ゼミを選んだ理由は、自己の経験からいじめに関する事柄に興味があり行動の抑制をおこなうことができないのか、またストレスを受けた人のパーソナリティ及びその測定に関心があったためです。ただゼミに参加する中でより広い視野を持つことが出来ました。

実際のゼミではパーソナリティに関する論文や様々な尺度について取り扱った論文を互いに発表・討論す

るだけでなく、日本ではまだ研究事例の少ない犬のパーソナリティについての研究や新聞や雑誌等での人生相談もゼミの研究対象にするなど幅広く関心のある分野を学ぶことができます。また杉若先生は研究者としての見方という基礎的なところからもう一度教えてくださるとともに、多岐にわたる経験を交えて非常にわかりやすく興味深い講義を行われます。その中で専門的な知識はもちろんのこと、大学生の生活の在り方や社会人としての考え方も学ぶことが出来ます。

私が杉若ゼミに入って良かったと思えるのは、ディスカッションに参加するたびに様々な視点を得て、考え、少しずつ自分自身の成長を感じられることです。これからも真摯に研究に励み心理学部生として、人として、成長していこうと思います。



Teacher's
Voice

心理学部心理学科

杉若 弘子 教授

そのまま伸びられんことを！

学部全体の構成からすると、今年度は、男子学生の割合が高いゼミになりました。私の在外研究中に配属の決まったメンバーでもあり、いずれもチャレンジ精神旺盛な面々であろうと推察しています。大学生として過ごす4年間(あるいは+α)には、様々な経験を重ねられることでしょう。縁あってここに集うメンバーとは、どのような時間を共有できるのでしょうか。「丁寧に思考し、シンプルに行動する」をモットーに、ともに切磋琢磨していけるといいですね。



4年次生のゼミ紹介

菊谷 まり子ゼミ (専門: 認知心理学)



刺激をもらえる場所

心理学部心理学科 4年次生
室橋 藍さん

私は高校時代から人の行動がどのように喚起されるのか、またやる気はどうしたら出るのかということに興味があり、その思いは大学生になっても変わることなく、卒業研究では人の行動やモチベーションについての実験がしたいと考えていました。ではなぜ、このような分野に興味がある私が、認知心理学や異文化心理学が研究分野である菊谷先生のゼミを選んだのかというと、「どのような切り口から私の知りたいことを学ぼうか」という考え方が理由になります。長年、人の行動喚起ややる気というところに興味を持っていましたが、一つの分野からだけでなく様々な分野から見ると、それは全てのゼミで学べることではないかと考え、それではより自分のやってみたい手法で、興味のある事象と関連付けながら研究がしたいと思い、様々なゼミの説明会に参加し、その中で一番最後に出会った菊谷先生の人柄、説明して下さった実験方法に強く心惹かれた為、菊谷ゼミを選びました。

菊谷先生の人柄を私なりに一言で表すと「尊敬できるお姉ちゃんみたいな人」です。心理学のことはもちろん、海外生活や社会人としての経験談も教えて下さり、時には私の恋バナにもお付き合いいただくこともあって、大学の先生としてだけでなく人生の先輩として、先生をとても尊敬しています。

また先生の下に集まったゼミ仲間たちも、多種多様な経験を積んできた人たちがばかりで、ゼミ発足後すぐ行った合宿で、みんなで夜更けまで自分の生き方やアイデンティティについて深く語り合ったことは私にとって忘れられない経験になりました。いろんな人がいて、その多様性を認めてもらえるところも菊谷ゼミの特徴であると思います。

そして先生が説明して下さった実験方法を基に、買い物という事象に関連付けて、長年勉強したかった人の行動喚起について卒業研究をすることを決めました。たくさんの刺激を受け自分も成長し続けたいです。



Teacher's
Voice

心理学部心理学科
菊谷 まり子 助教

過程を楽しむ

個性豊かな皆さんの、ゼミ発足当時から成長ぶりに刺激を受けています。卒業研究は研究結果が全てではありません。論理的思考はもちろん計画性や協調性、プレゼンテーションスキルなど、研究の過程で必要な様々なスキルを自分のものにしていくことが実は最も大切です。ゼミの活動を通して研究の過程を楽しみ、自分のスキルの向上に大いに役立ててください。これからも成長が実感できるゼミを目指していきましょう。

● 2013年度就職状況

心理学部就職支援委員 鈴木直人教授



心理学部として2年目に当たる昨年度の就職活動は景気の回復基調を背景に、比較的順調に推移したように思われます。表1は、今年の3月に卒業した131名の進路をまとめたものです。就職者は90名（男子25名女子65名）ですので、就職内定率は84.1%となります。この数値は、卒業式に出席しかつ就職先を調査用紙に記載した人の結果を集計したものです。未確認者17名の中には、就職が内定しているが卒業式に來なかった人、出席はしていたが就職先を書かなかった人、就職先が未定の人を含みます。昨年度の父母会報の就職内定率の数値を見ますと96.6%という数字が記されており、就職内定率が下がったように見受けられます。実はこの数値はキャリアセンターが集計したもので、就職登録をした学生で計算したもので、これと同じ基準で集計したキャリアセンターの発表の今年の数値は98.8%となります。昨年度より好調であったことが伺われます。大学院への進学は22名と昨年の32名より大幅に減少しました。景気の回復が影響し、就職者が増え、大学院への進学希望者が減少したためと思います。ただ、昨年度の特徴は、他の大学の大学院に進んだ学生が多かったことです（表3）。

表2は、就職先の一覧です。どのような会社に就職しているかの一つの参考資料としていただければ幸いです。過去の心理学科時代、心理学専攻時代を見てみると、いろいろな分野の、いろいろな会社に就職しており、特にこの分野への就職が多いということはないように思います。昔は経済学部や法学部、あるいは商学部でないと就職は決まりにくいということがありました。しかし、現在は学部卒業では、あまり学問の専門性は問題にしないと聞いています。私は就職先を聞かれたとき、「就職先は、いろいろで、もしそこそ有名な会社の名前をあげられたら、そこには一人は出身者が入社していますよ」と答えることにしています。そこで問われるのは、学生の皆さんが大学で、これまでの人生で、何をしてきたか、あるいは何に情熱を傾けてきたのかだと思います。自信を持って、自分は何をしてきたといえる学生が一番就職に強いのだと思います。

2013年度(2014年4月採用) 心理学部心理学科 進路データ

表1 2013年度卒業生進路

	全体(人)	男子(人)	女子(人)
公共・その他	19	9	10
サービス	18	3	15
金融	17	3	14
メーカー	13	5	8
流通	10	1	9
情報・マスコミ	9	2	7
教育・学校支援	4	2	2
就職者小計	90	25	65
(割合%)	(68.7)	(64.1)	(70.7)
(就職内定率%)	(84.1)	(75.8)	(87.8)

	全体(人)	男子(人)	女子(人)
大学院進学(学外)	14	3	11
大学院進学(学内)	8	3	5
その他の進学	2	0	2
進学者小計	24	6	18
(割合%)	(18.3)	(15.4)	(19.6)
未確認	17	8	9
(割合%)	(13.0)	(21.1)	(9.7)
合計	131	39	92

2014.3.26現在 心理学実験室調べ
* 未確認には、未定者、未報告者を含む

表2 2013年度卒業生就職先一覧

公共・その他 19	家庭裁判所調査官 公益財団法人(2)	府・県警(京都(3)、青森、静岡)	市役所(池田、広島、大阪、茅野、神戸) 社会福祉法人(2)
サービス 18	(株)タナベ経営 ヒューマンリソシア(株) (株)マイナビ 京都タワー(株) 全日本空輸(株) (株)タナックス	(株)総合キャリアオプショナル (株)ニラク ソフトバンクモバイル(株) (株)H・I・S (株)CAN (株)FRR	(株)ベアハグ (株)ミルボン 裕進観光(株) KCCSマネジメントコンサルティング(株) (株)福井県民球団 (株)エスクリ
金融 17	(株)三井住友銀行(3) 三菱UFJ信託銀行(株) 滋賀中央信用金庫 京都信用保証協会 藍澤証券(株)	(株)三菱東京UFJ銀行 (株)近畿大阪銀行 三井生命保険(株) NTTファイナンス(株)	アメリカンファミリー生命保険会社(2) 三井住友信託銀行(株) 日本生命保険相互会社 野村證券(株) アコム(株)
メーカー 13	(株)バンダイナムコゲームス 福島工業(株) サンキン(株) (株)共立合金製作所 タマホーム(株)	明和機工(株) 奥村組土木興行(株) サッポロビール(株) ヤンセンファーマ(株)	花王カスタマーマーケティング(株) ノバルティスファーマ(株) (株)デンソーセールズ (株)類設計室
流通 10	イオンモール(株) (株)リンク・セオリー・ジャパン (株)DNP住空間マテリアル	(株)京阪百貨店 (株)ストンプ・スタンプ (株)ハートフレンド	イオンリテール(株) (株)クロスカントリー (株)アニエスベサンライズ
情報 9	SGS(株)(2) (株)エム・アル・ビー (株)システムコーディネイト	NECソフト(株) (株)ワークスアプリケーションズ	(株)NTTマーケティングアクト (株)システムディ ユニシステム(株)
教育・学校支援 4	国立大学法人 東北大学 (株)ウィルウェイ	(株)オー・イー・エス	学校法人 関西医科大学

表3 他大学大学院進学者進学先

他大学進学者 14	神戸大学大学院人間発達環境学研究科(2) 中京大学大学院心理学研究科(2) 兵庫教育大学大学院学校教育研究科専攻 早稲田大学大学院人間科学研究科 関西大学臨床心理専門職大学院 神戸大学大学院医学研究科	関西大学大学院心理学研究科(2) 大阪大学大学院人間科学研究科 鹿児島大学大学院臨床心理学研究科 川崎医療福祉大学大学院臨床心理学専攻 一橋大学大学院社会学研究科
--------------	---	---

● 第1部 卒業生講演

2012年文学部心理学科卒業 東野 遥香さん
（村田機械株式会社勤務）



テーマ「ものづくり企業の採用担当として」

ナマの声聞き、じっくり気負わず、自分と向き合って

私自身も約3年前に就職活動をしていました。そうした自身の経験とともに現在人事グループで採用担当をしておりますので、その視点も含めて皆さんに有益な情報をお伝えできればと思います。私は2012年3月に文学部心理学科を卒業しました。入学したころは将来心理学を活かした仕事がしたいと考えていましたが、サークルやアルバイトを通じて視野も広がってきて、専門性を突き詰めるより、いろんなことにチャレンジしたいと思うようになり、一般の企業を対象に就職活動をしました。

昨年4月に村田機械に就職が決まり、研修期間を経て人事グループに配属になりました。村田機械は京都市伏見区にある産業機械のメーカーです。皆さんの目に触れたり、直接使っていただく製品ではありませんが、日本のものづくりを根底から支えている会社です。今は大学4年次生の就職選考を進めており、他にも、インターンシップなど採用にかかわる仕事も担当しています。

私自身の就職活動を振り返ってみて、もっとああすればよかったな、もうちょっと準備しておけばよかったな、ということも結構ありましたので、今日は皆さんに自身の反省点を踏まえたアドバイスができればと思います。

就職活動には度々自己分析というキーワードが出てきます。自分の強みとか弱みを発見する方法にもいろいろとあります。これまでの行動を振り返って、こういうところは得意だが、こういうところは弱いかと分析する方法もありますが、一番手っ取り早いやり方は、身近な友人や肉親にフィードバックしてもらうことです。そういう形で自己分析を進めますが、そこで止まってしまうずに、その強みをどういう業界や職種で活かすことにできるかを考えることが大事だと思います。どのような会社や仕事があるかがわからない中で、自身の強みをどう活かすかを踏み込んで考えるのは難しいと思います。そこで重要になるのが企業研究です。世の中には知らない会社がたくさんあります。中で働いている人がどんな仕事をしているのかなかなかわからないものです。そうしたところをしっかりと研究してほしい。スマホで概要は簡単に調べられますが、実際の働き方や雰囲気などはなかなかわからない。やはり、OBやOGを訪問して、実際に話を聞くとより理解が深まります。例えば「英語を使って仕事をしたい」というより、「英語を使ってこの部署／職種でこんな仕事をしたい」と具体的に自己アピールできれば、うちの会社で働くイメージができていくな、と面接官や採用担当者の印象も変わってきます。

もう一つ、重要なのはスケジュール感です。世の中の流れとして2015年度卒業生は3年次生の12月ごろから合同説明会や学内の説明会が開かれ、翌年4月から本格的な選考開始という流れです。ところが今の3年次生から就職活動の流れが大きく変わります。説明会や選考が始まるのが今より3、4か月遅くなります。学生もいろんな不安があると思います。どうすればいいか。企業と接触できる最初のチャンスとしてはまずはインターンシップです。実施企業は増えています。早くから動いている意識の高い学生から刺激を受けることもできます。ぜひインターンシップを活用してください。また、企業は現時点での能力も大切ですが、企業は将来の成長を期待できる人を求めています。長く勤める会社を探すわけですから、まだ先のことと思わず、じっくりと気負うことなく、自分自身と向き合ってください。

2001年文学部文化学科心理学専攻卒業 中西 桃子さん
(臨床心理士)



テーマ「臨床心理士というお仕事」

何事にも積極的な姿勢が、夢や目標を現実のものに

今日は、私の臨床心理士としての経験を母校の後輩の皆さまにお伝えできることをとても光榮に思っています。私は大学を卒業して、いろんな経験を積んでから臨床心理士になりました。その経験がお役に立てれば幸いです。まず、臨床心理士とは財団法人日本臨床心理士資格認定協会の認定を受けた心の専門家です。現在、日本には約2万5千人の臨床心理士がいて、教育や医療、福祉、産業など様々な分野で活躍しています。私もスクールカウンセラーや情緒障害児短期治療施設、精神科クリニックなどでの勤務経験があります。

私は同志社国際高校出身で、もともとは獣医になりたかったのです。白衣が着られて、実験があるところに魅かれ、心理学に進みました。馬術部に入ったのがきっかけで、乗馬療法というものに出会ったのです。障害を持った人が乗馬を通じて気持ちを癒すアニマルセラピーのようなものですが、このボランティアをしていました。ある時、虐待を受けた子供たちと動物と一緒に生活する施設をアメリカで運営している Dr.Ross という人の講演を聞く機会があり、大きな感銘を受けました。大学3年次の夏休みにそこでインターンとして働きました。その時感じたのは、子供たちにしてあげられることは何もない、自分が与えられているということでした。それできちんと勉強をして、臨床心理士になろうと決意したのです。アメリカの大学院への進学を決め、英語と心理学を猛勉強しました。9・11の影響で留学先はオーストラリアの大学院になりましたが、帰国後には国内で大学院にも進み、臨床心理士の資格を取得しました。

臨床心理士は仕事がないとか常勤職がないとか聞くのですが、私自身はそういう経験はしていなくて、いつも仕事に恵まれていました。それにはコツがあると思います。まずは、大学在学中に自分の興味のある分野を積極的に開拓することです。臨床心理士は幅広い現場でいろんな知識が求められますので、いろんな経験で無駄になるものはありません。大学院在学中はどんな場所でどんなふうに働きたいかということをいろいろしっかりとイメージする必要があります。自分の興味のある施設や人にアプローチして、インターンとかボランティアをとおしてコネクションをたくさん作ってください。小さい職場で、人気のあるところはそうしたコネクションが有利になることがあります。こうした経験は即戦力を求める職場でも有利です。心理学を学んでいて一番最初に勉強するのは自分自身のことですよね。自分はどうな人間なのかということです。仲間と語り合って、自分はこんな人間なんだということを考え、常に自分がどんな場所で働きたいかという夢や希望を先生や実習先の責任者に語ることが大事だと思います。そうすることで夢や目標がどんどん現実のものになってきます。

臨床心理士は一生を通じてやりがいのある仕事です。人の心についての学問は奥が深く、いくら学んでも学びきれません。また、あらゆる場で必要とされる需要のある仕事です。今後もまだまだ働く場は増えるでしょうし、自分自身で開拓することもできる仕事です。私は育児のためにしばらく仕事を離れていますが、そうした自分自身のライフイベントの経験も仕事につながっていく有り難い仕事です。臨床心理士はイスとテーブルだけあればずっと続けていける仕事ですし、年をとってもそれだけ味わいの出る仕事だと思います。

● 第2部 卒業生・教員によるパネルディスカッション

2012年文学部心理学科卒業 東野 遥香さん(村田機械株式会社勤務)

2001年文学部文化学科心理学専攻卒業 中西 桃子さん(臨床心理士)

コーディネーター 内山 伊知郎心理学部教授



大学時代の貴重な経験が生きる

内山 東野さんの講演の中に自己分析と企業研究というお話がありましたが、同志社大学の卒業生を対象にした就職アンケートでも就職活動の反省点として「自己分析が不十分だった」というのが一番多かったです。「企業研究が不足していた」が2番目に多く、3番目は「就活をどうしていいか分からなかった」という結果でした。これ以外にも面接段階での反省点としては「志望動機があいまい」とか「試験準備が不足していた」などの声がありました。現在は採用する立場の東野さんは、大学時代に就職をどのように意識し、どのように大学時代を過ごしておられましたか。

東野 大学時代は自宅通学でしたが週に4、5日はサークル漬けの生活で、アルバイトもやっていました。ただ、社会に出るにあたってそうした経験は大変重要になってきます。サークルは組織の運営とか、人との関わりとか重要ですし、アルバイトとはいえ就業経験ですので、学ぶ姿勢を持ってやれば意味のあることだと思ひ

ます。合唱サークルに入っていたのですが3年次生の12月までは演奏会などで忙しく、実際に就職活動に入ったのは年明けでした。周囲のみんなが動き出しているのをみて、そろそろ自分もやらなければ、と焦るようになりました。まずはお話ししたように自分の強みは何だろうというところから始めました。参考程度に本を読んだり、先輩や友人からも情報を集めました。私は直前に詰め込むタイプでしたが、同期の中には早目に会社情報を集めたり、インターンシップに参加している人もおり、彼らのほうがやはりしっかり勉強できていて気持ちにも余裕があるように感じました。

自分の興味が職業につながる

内山 中西さんは臨床心理士という専門職に就いておられますが、どんな学生時代を過ごされ、その中からどう進路を見つけていかれたのでしょうか。

中西 私の学生時代の1、2年次生のころは馬術部にのめり込んでいました。朝5時くらいか

ら馬の世話でおが肩まみれになって、9時からの講義に出ていましたね。馬をはじめ動物が好きでしたし、心理学を学んでいるという意識はつねにありましたので、好きなことと心理学にどこか接点がないかなとずっと考えていました。そうしたらある時に障害者の方が馬に乗ってリハビリにもなるという論文を発見して、自分の仕事につなげていけないのではないかと考えました。好きなことを突き詰めてやって、どこかで意識していたら、何か出会いってあるのだなと思います。大学院の時は就職を目標としてこういうところで働きたい、こういう臨床心理士になりたいという目標がはっきりしていましたので、児童心理、児童福祉の研究をされている先生の所に行き、勉強しました。また、いろんな関連施設を訪ねて、そこでコネクションをつくって、仕事を見つけました。アメリカの大学院に行ったのは、日本に私が勉強したい分野の研究をやっておられる先生がおられなくて、調べたらアメリカにたくさんいらしたので海外しかないということになったのです。

情報収集で進路の方向を決める

内山 広い視野を持って、海外にも目を向けておられたのですね。同志社国際高校のご出身なので、語学が得意ということもあったのではないかと思います。実は今、同志社大学は国際化を一段と進めておりまして、海外の大学との交換留学であるとか、海外からの学生・研究者の

受け入れとかが増えています。海外で就職する人も増えればいいなと思っています。東野さん、学生時代の思いや就職してからの反省も含めて、人事のプロの目から見て自己分析とか、企業研究とか具体的に何かいいアドバイスはありますか。

東野 学生時代はやりたいことをやるのが一番いいと思います。その中で学べることはたくさんありますし、社会に出てからも重要になる人と人のつながりも広がります。サークルやアルバイト、学部、学科の中でも周りの人とコミュニケーションをしっかりとって下さい。自己分析は自分で考えることも大事ですが、周りの人から見てどうなのかということを開けば、客観的に自分の気づかないところも指摘してもらえます。企業研究は合同説明会に参加したり、就職サイトを見たり、先輩が就職した会社を調べてみるのもいいと思います。幅広く情報が集まれば自分の興味の方向もやっているうちに固まってくると思うので、まずはあえてあまり興味のない業界や聞いたことのない会社も含めて、いろんな会社を調べてみるのだと思います。

あれこれ悩まず、まず行動してみては

内山 中西さんは、臨床心理士の資格を取られて、これまでいろんなところで活躍してこられました。専門家の立場から臨床心理士になりたいなら、こんな風にすればいいよというようないいアドバイスがありますか。

中西 私のやり方はまず行動です。大学1、2年次生の時は自分が何をやりたいのか、心理学に何ができるのだろうとか悶々としていた時期がありました。そういう時は自己分析とか性格分析とかやってみたのですが、やっぱり何かよくわからないのですね。そこである時、悩むことをやめて、とにかく行動してみようと思いました。学生時代って一番時間がある。お金がなくても、できることはたくさんあるのです。私もアルバイトやボランティアなど一杯やりました。今が一番やりたいことを満



喫できる時だということをよく自覚していただいて、悩んでいる暇があるなら、まず行動してみてください。

内山 中西さんは何にでも果敢に挑戦してこられました。そういうことが恥ずかしくてできない人もいます。

中西 私はとてもアグレッシブな人間だと思われるかもしれませんが、もともとはとても内向的でした。海外に行った経験が自分が変わるきっかけでした。向こうの学生はとてもアグレッシブです。大学の講義でも自分で手を挙げて、間違っただけなんです。そういう状況の中で、自分が変わらなければいけないと思い、殻を打ち破ったという経験があります。これからの人生をよりよく、豊かに行きたいと思うならどこかで自分の殻を打ち破らないといけません。それがみんなに見守られながら、失敗しても立ち直れる大学時代であれば一番いいと思います。

将来性は能力より意気込みの中に

内山 東野さんのお話の中で、現状だけでなく将来の成長が期待できる人が求められているというところがとても印象的でした。こういう視点とか、考え方を持っていると将来成長が期待できるというようなポイントがありますか。

東野 面接の中でのスタンダードな質問ですが、学生時代に頑張った事などを通して、この人はどういう考え方を持っていて、どう行動する人なのかというところを面接官は見ています。頑張って努力するタイプであれば、入社後もしっかりやってくれそうだという期待につながります。能力よりも意気込みとありますか、どういう風な思いを持って行動しようとしたのが重要になってきます。自分がどうなりたいか、どう行動したいか、どう変わっていききたいかというような意欲的な部分を大切にしていけたらいいと思います。

中西 私は、キーワードは好奇心だと思います。とりあえず好奇心があれば、日常の中にいろんなものが落ちている。「チャンスは注意力の副産物」という言

葉があります。今何もする気が起きないとか、面白くないとか思っている人もいるでしょうが、何か一つ自分の中に好奇心の種を見つけて、それをじっくり育ててみるのが一番大事だと思います。

失敗怖れず、どんどんチャレンジを

内山 お二人の発言は、どれも大変興味深いお話ばかりでした。今就活中の学生もこれから就活する学生もとても参考になったと思います。最後にひとことずつ、これだけはっておきたいということがあればお話し下さい。

東野 今回、沢山の保護者の方、学生の方が来られていると思いますが、こういう機会に参加するのも意欲的に意識を持って行動しておられるということだと思います。そういう行動力を大切にしながら、学生時代をしっかりと楽しみ、自分のために有意義に過ごしてください。

中西 私が最後にいいたいのは、どんどん失敗してほしいということです。社会に出てからの大きな失敗は痛手になりますが、学生時代の失敗は力になります。だから、どんどん挑戦して失敗して、挫折してください。学生時代は、すごく贅沢な時間です。そのことを心に留めながら、どうかいろんなことにチャレンジしてほしいと思います。

内山 本日はどうも有り難うございました。



幻想で生きている



心理学部心理学科
余語 真夫 教授

「心は存在するのか？」と問うと、たいていの学生は絶句し、「確かに心はある。現に自分には心があり、家族にも友人にも心がある。」と答えます。

「では心とは何か？ どうして心があると言えるのか？」、「自分とは何か？」と問い、そもそも「個人の自由意志」というものはあるのか？」と問うと、たいていの学生は「私は確かな存在。自由意志は存在し、私は自分の意志で行動している。自分の存在、意志、気持ち、考え、行動は純粋に自分に生

じる確かなもの」と答えます。

講義では実験心理学、生物学、時には哲学や法学、人類学などの論拠を示しながら、「心」とよばれているものは多種多様な要素の集合を指す抽象概念であり、実在する物体ではない、と語ります。「イヌにも心がある」、「花にも心がある」という人もいますが、それはあくまで人間の視座による解釈であり、人間が心とよんでいるものが動物や植物にもあるという根拠はありません。

心理学の背骨



心理学部心理学科
畑 敏道 教授

私は、「心理学実験演習」「心理学統計法」「ファーストイヤーセミナー」という科目を担当しています。お子様が「心理学部に行きたい」と言い出したとき、「嗚呼、せっかくこの年まで大事に育ててきたのに。そんな怪しいところ、うちの子はどうかしちゃったんじゃないか。文系ならもっとまっとうな、たとえば法学部や経済学部になさい」と、少なからず思われたかもしれません。一方、学生のなかには「心理学なんて怪しそうで面白そう♡」くらい

の気持ちで進んでくれた方も少なからずいるものと思います。そんな学生に「心理学の背骨」を移植することがこれらの科目の、つまり私の、役割です。ではなぜこのような移植をしなければならないのでしょうか。

前号の中谷先生の言葉にもありましたように、心理学部の学生に身につけてもらいたいのは「(客観的)事実を根拠として論理的にものを考える姿勢」です。感情に基づいて判断するこ

と「自分」とか「自由意志」も同様で、今この瞬間に立ち上がる純粋な「自分」や「自由意志」など存在しません。「自分」や「自由意志」は過去から現在までの生活環境と不可分です。「自分探し」や「本当の自分」なるものを見つけようとする行為は時間の浪費です。「本当の自分」とは今この瞬間に生きている自分以外のなにものでもないでしょう。

社会生活では驚愕する事件が起こります。「心や行動の正常と異常の境界線は存在するのか？」と問うと、たいていの学生は「ある」と答え、少なくとも自分は正常だと答えます。しかしながら、正常と異常の唯一正しい境界線は存在しません。正常と異常は紙一重。事実、喫煙習慣が病気の一種として扱われるようになり、同性愛が正常な愛情関係の一種とみなされるようになったように、正常と異常の境界線は時代、文化、状況・文脈、人間関係・組織によって変動します。殺人も正義(怪しい概念の一つ!)のためなら正常行為とみなされます。

人間の心は実に奇怪です。昔の人も現代人も迷信深いことには変わりありません。どれもこれも人間の「記憶」と「知覚」と「概念」が生み出す仮像であり、個人の「幻想」か、社会的世で合意される「集合幻想」に過ぎません。心理学は、そうした仮像を解明しようとする科学です。心理学を学びだすと、自明であった「自分」の存在そのものが怪しくなり、環境や社会に関する信念が揺らぎだします。その精神的動揺を幾度も経験し、初めて新しい地平が拓かれていくように私は思います。

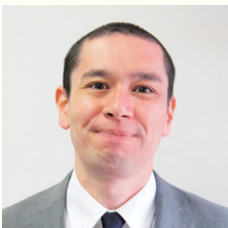
とは自然と身についているので、特に意識的に訓練する必要はないでしょう。しかし、感情や気分の影響を極力排除して客観的な事実に基づいて判断することは、訓練しなければなかなかできることではありません。

「人のこころ」を客観的・論理的に見ることは、特に困難なようです。たとえば親が苦労してひとりの子どもを育て、学校で特に問題も起こさず、自分で日銭を稼いで生活を送れるようになれば、親は安心するとともに、「自分の子育てはまちがっていなかった」と思うでしょう。しかしそれと同時に、そうはならなかった親に対して「育て方が悪いのだ」と、感じてしまうでしょう。決して客観的な事実に基づく論理的な判断でなくとも、本人はそういうものと「理解してしまっている」。この、なんとなく思いこんでしまっていることを疑えるようになって欲しい。そのためには「疑う技術」を身につける必要があります。

これらの技術を磨くために設けられているのが、先の科目です。ある出来事が何を原因として生じたのかというものを見抜くためには実験的な考え方が必要です。少数の事例から一般的な結論を導くためには統計的な考え方が必要です。また、得られた事実から必然的にどのような結論が得られうるのかを理解するには、論理的に考える力が必要です。これらの技術こそ、学生に身につけて欲しいと願っている「心理学の背骨」です。心理学は「世界をわかってしまわないための装置」なのですから。

New Teacher's Introduction

新任教員



ふじおか いさお
藤岡 勲 准教授

①研究分野・領域：臨床心理学、多文化間カウンセリング

②研究テーマ：

多様な文化的背景を持つ人々に対する心理援助、および、心理援助におけるプロセス

③学生へメッセージ：

学生のあいだにどのような経験をするかが、その後の人生に大きな影響を与えたいと思います。なぜなら、大学には学びかけがたくさんありますし、学生時代は様々なことにトライできる貴重な時期だと思うからです。私自身も、学生時代に色々な経験をしながら、学問のおもしろさを知り、素晴らしい出逢いに恵まれたことが今につながっています。皆さんには学生のあいだに様々なことを学びながら大きく成長してもらいたいと思っていますし、私もそのサポートができればと思っています。



『充実』とは何か

石橋 彩波さん

〔心理学部心理学科2年次生〕

大きな期待と少しの不安を抱きながら、初めてキャンパスに足を踏み入れたあの入学式から、早くも1年が経ちました。これまでの大学生活で、私の考え方やライフスタイルにも多くの変化が訪れ、それらは私の成長の糧となりました。しかし、入学当初から変わらないこともあります。それは、「有意義な日々を過ごせているか」と自分自身に問いかけることです。大学生活という、短くも貴重な時間をいかに充実したものにするかは、常に私の課題です。

充実した大学生活とはどのようなものなのでしょうか。大学と聞いてイメージするのは、多くのサークル活動への参加やアルバイト、幅広い交友関係や恋愛など…。入学当初の私は、それらを全てこなすことこそ充実した大学生活につながると考えていました。ですが、実際の私はそんな理想像とはかなり異なっています。参加するサークルは1つだけ、アルバイトはせず…決して、さまざまな面で活動的な大学生とはいえません。

ですが、この1年を振り返ると、数は少なくとも一つ一つの活動がとても充実していました。サークル活動では何度もステージなどで人前に立ち、人を楽しませる喜びを知りました。ずっと興味を抱いていた心理学を学び、より一層心理学に対する興味、学ぶことに対する意欲が湧きました。そして何より、支えあい、認めあい、笑いあえる、一生大切にしたいと思える友人ができました。大学入学前の私にはなかったものであり、一つ一つの活動を大切にしなければ得られなかったものです。かつての私にとって充実した大学生活とは、あらゆる活動に参加したり、たくさんの友人を得ることでした。ですが今は、たとえ数は少なくとも自分にできることの一つ一つを大切に、そこで生まれる人間関係を大切にすることだと考えています。それこそ、私にできる最大限の努力なのです。

今年もまた、大きな期待と少しの不安を抱えながら大学生活を迎えることとなった人が数多くおられると思います。同志社生としての1年目を迎える人々が、自分らしく、充実した大学生活を送れることを心から願います。



知識を知恵に変えて

八谷 勇斗さん

〔心理学部心理学科2年次生〕

大学に入学してから早いものでもう1年が経ちました。キャンパスの桜を背に、同志社の徽章が入った紫色のかばんを提げて歩く新入生の姿を見てみると、自分も2年次生になったのだという実感が湧いてきます。心理学という学問に出会い少しだけ足を踏み入れてみて、机の前でただ話を聞いているだけでは学ぶことのできない、心を科学することの奥深さと難しさを知りました。

心理学との出会い以外にも、サークルやボランティアなどを通して沢山の出会いがありました。高校時代から続けているハンドベルでは、今年のクリスマスに、学内の礼拝や外部の商業施設、ホテルなど多くの場所で演奏をさせていただきました。また、今年度は、他大学と合同で行うコンサートの企画もしています。自分の好きなものを通して社会とつながり、世界を広げていくことの楽しさや大切さを学ぶきっかけになったと感じています。さらに、今年の秋から学生ボランティアとして、母校の中学校で不登校や特別支援学級の生徒の支援をしています。別室登校をしている生徒と一緒に勉強や雑談、進路相談をしたり、特別支援学級の授業のサポートをしたりしています。また、実際の現場では、本来の仕事以外に、生徒間で起こる突発的なトラブルに対応しなければならない場面も多くあります。学生ボランティアの活動を通じて、リアルな中学生の姿を自身の肌で感じ、体験的に学ぶことの大切さを知ることが出来ました。

勉学は大学生にとって不可欠なものであり、その意味で大学での学びは重要であるといえます。しかし、学びは、何も大学の講義の中だけにあるものではないのです。むしろ、大学で学んだ知識を多様な経験を通して知恵に変え、社会で活かしていくことこそが真の学びといえるのではないのでしょうか。より深く心を科学し、その楽しさにもっと近づいていけるように、自分の周りにあふれる学びの機会を大切にして、これからも学び続けていきたいと思います。

在学生 PHOTO アルバム ～学生生活の一コマより～





今という大切なとき

阪口 真菜さん

[心理学部心理学科3年次生]

もう3年次生になったのかと思うと、この大学生活は一瞬で私にとり、とても貴重な経験をさせてもらっている時期なのだと思えて実感しています。今、私はクリケットサークルに入っています。クリケットは野球の原型と言われているスポーツです。今の3年次生が中心となって運営をしているのですが、先輩たちが積み重ねてきたものやみんなで協力する事の大変さ、大切さを日々感じています。

春休みにはスプリングプログラムを利用して頂いて、ニュージーランドにホームステイしました。1ヶ月は本当にあっという間で、英語が喋れるようになったというよりも、たくさんの素敵な人々に出会い、多くの経験をさせてもらったことの方が大きいです。現地の教会で「私たちは慣れた場所にいると安心して居心地が良い。しかし鳥の巣立ちがあるように、神様は大切なひとり子イエスを私たちの罪を負うためにこの世に送り出した。」と聴きました。私自身、嫌な事があると逃げてしまい、億劫になり行動に移さない事が多いです。しかし、これからは、例えば何か困っていたり寂しい思いをしている人に手を差し伸べてあげたり、自分が挑戦してみたい事など世界に目を向けて今の自分のできる事を実際に行動に移したいです。そこで大切なのがコミュニケーションだと思います。心理学の授業でも習いましたがどこに行くにしても人と人との関わりが生まれます。アルバイトでも、お客さんとはレジで接するほんの数十秒の関係ですが、気持ちよく買ってもらうにはどんな接客がいいのかなと考えたり、授業で習ったなあと思うことを経験します。「ありがとう」といわれるととても嬉しい気持ちになります。

今、自由に出る時間があるからこそ、一歩踏み出して行動し、良い事も悪い事も学んで行き、そして、今の置かれている環境、大切な友達、家族、先生、周りの人々に感謝を忘れず良いところはのびし、悪いところは改善できるような、そんな人間になりたいです。



将来の自分のために自己投資をすること

川合 那津美さん

[心理学部心理学科3年次生]

様々な期待と不安を抱えて大学に入学してから気が付けば大学生活の折り返し地点を過ぎていました。大学という環境はこれまでの学校環境と違い、すべてを自分の意志に託されているように感じます。そのような環境に戸惑いながらも、自分らしく大学生活を送れるようにと考えながら過ごした2年間はあっという間でした。

3年次生になった今、ひとり暮らしや大学の環境や勉強に慣れてきたと感じられるようになり、気持ちに余裕が持てるようになりました。そして、大学という自己選択に委ねられる環境だからこそ、勉強以外で自由に使うことができる時間を作り出すことができるということにも気が付きました。そこで、私はこの余裕をアルバイトに充てることに決めました。その理由は自己投資をするためです。私はこの大学生という期間が価値観や人間性を形成する最後の機会であり、様々な経験をする時だと考えています。そこで「経験を買う」という考えに至りました。もちろん、お金のかかる経験が全てではありませんが、それでは経験の幅が限られてしまいます。そこで、時間に余裕があるのであれば、そこに自由に使える資金を加えることで経験の幅を広げられるのではないかと考え、アルバイトをして資金を調達することにしました。そして、経験の幅を広げた先に挑戦したいと思えることを見つめました。それは、国内・国外を問わず「人に会う」という行動に出るということでした。「人に会う」とことで、自分とは違う価値観をもった人と関わることができ、自分の考えの偏りや視野の狭さに気付くきっかけとなりました。また、「人に会う」という経験は、「人を知る」ことに重点を置く心理学において大変意義のあることであり、勉学の面にも良い影響を与えてくれたと感じています。

入学した頃の自分と今の自分を比べると、経験を繰り返すことによって価値観や将来像が違ったものになっていることに気が付きます。しかし、この変化は経験を繰り返す中で得た産物だと考えています。そして、これからも勉強はもちろんですが、自己投資にも力を入れて自分に磨きをかけていきたいと考えています。



ご父母
から



ルーツをさぐる

永原 康規

心理学部
心理学科1年次生
永原 康裕



祖父は、滋賀県から京都に丁稚奉公に来て、一代で財を成した立志伝中の人物であった。私が5才の時に他界するが、私を誰よりも可愛がってくれた。父は家業を継ぐが、決して商売に向く社交的な性格では無かった。読書家で子煩悩で、頭の良い父で有ったが、父の輝く世界で活躍出来て居たならと思う。母は農家の長女、働き者で都会に出て、玉の輿に乗る事を夢見ていた。母は、気が付いたら直ぐに行動する人であった。晩年は酒に溺れ、父はデリケートで繊細な性格の為、傷つきやすく、晩年は酒に溺れ出し、父はアルコール依存症と成る。母は宗教団体に救いを求めて、家の金を持ち出し、ルールを繰り返す。妻は同志社中高から音楽の道に進み、現在も音楽活動を続けている。私の人生に終わりが来て、もし神様がもう一度お前

1995年、長男誕生。私の人生に終わりが来て、もし神様がもう一度お前の好きな時に戻してやると言われたら、迷わず初めて長男をこの腕に抱いた瞬間に戻りたい。時は流れ、2014年4月、長男が同志社大学心理学部に入学。祖父は、商売人が金が無いは首が無いのと同じと言ったが、町内ではお辞儀の永原さんと言われる程、腰の低い人だった。父は、自分より優秀な友達と付き合え、と言った。母は、人の喜ぶ仕事をしなさいと言った。私の人生観は「ああ面白かったと言って死にたい」である。そして、最高の謙虚さと最大のやる気が、人間の運命を切り拓くポイントだと思っ

何事も経験だ!!

近藤 康仁

心理学部
心理学科1年次生
近藤 敦樹



息子が大学に入学して、早2ヶ月になる。同時に一人暮らしも始めたので、家を出てからも2ヶ月である。家にいる時もほとんど会話がなかったので、いなくなったからといって何か大きく変わったということはないが、ご飯を作ったり食へに行ったりする時の人数が1人減ったくらいか? (これが結構大きいかも) 今は、ちゃんと起きて学校へ行っているか、ご飯はしっかり食べているか、友達はできたかといったごくごく平凡な心配をしているだけで

心理学部を受験すると聞いた時は、「なんでやねん」と最初は思ったものの、息子がこれまでの人生の中で自分で決めた大きな事柄の1つである事を考えると、何とか応援したくなるのも、また、親心かなと思ったりもする。それにしても親から見て何を考えているかわからない子供なので、他人の心理を分析するよりも、まずは自分の心理分析をしてもらいたいものだ

先日、父母会に参加し、その後、京田辺校の校内を初めて見学したが、私のイメージしていた大学とは大きく違い、「最近の大学は建物やレストラン、グランドといった施設がこんなに充実しているものなのか」と大いに驚いたものである。と同時に、こんな大学でキャンパス生活をこれから送ることができる息子をうらやましくも思ったりした。

すでに、いくつかのサークルにも参加し、また、アルバイトも始めたということで、親の心配をよそに順調な学生生活をスタートしたようであるが、これから、いろいろ失敗したり、悩んだり、また、自分の思うように事が進まないこともあると思う。何事も経験なので、大いにもがいたらいいと思っている。

まだ、心理学部に入りたかった理由をちゃんと聞いていないので、今度、ゆっくり酒でも飲みながら、息子の成長を少しでも感じながら話したいものだ (当分無理だとはわかっているが)。

父より



● 心理学部・心理学部父母会行事

同志社1dayキャンパス／心理学部地方懇談会 案内

1dayキャンパスは、高校生・高校生父母および在学生父母を対象に大学の近況報告、入試説明、キャリア支援の説明、学部教職員による個別相談などが行われます。心理学部父母会では、心理学部地方懇談会を同時開催しますので、地域にお住まいの皆様、奮ってのご参加をお待ちしています。詳しくは、4月郵送のご案内もしくは父母会ホームページをご覧ください。

2014年度同志社1dayキャンパス／心理学部地方懇談会 開催日程・会場		
開催地	開催日	会場候補地
仙 台	6月1日(日)	KKRホテル仙台 市営地下鉄「勾当台公園」駅徒歩7分
福 岡	6月22日(日)	TKP博多駅前シティセンター JR「博多」駅徒歩2分
名古屋	6月29日(日)	TKP名古屋駅前カンファレンスセンター JR「名古屋」駅徒歩5分
金 沢	7月6日(日)	ホテル金沢 JR「金沢」駅東広場徒歩1分
東 京	7月20日(日)	TKP市ヶ谷カンファレンスセンター JR「市ヶ谷」駅徒歩1分
京 都	11月1日(土)	京田辺キャンパス(教室未定)

● 2014年度 学部学年暦

春学期

春 学 期	2014年 4月1日(火)	春学期始め・春学期入学式
	2日(水)	春学期入学式
	2日(水)	新入学生履修指導期間 履修科目登録期間
	3日(木)	
	4日(金)	
	5日(土)	
	6日(日)	
	7日(月)	講義開始
	28日(月)	春学期学費納入最終日
	29日(火)	休日
	5月5日(月)	
	5月6日(火)	振替休日(授業日)
	7月21日(月)	海の日(授業日)
	26日(土)	講義最終日
	28日(月)	期末試験開始
	8月8日(金)	期末試験終了
	9日(土)	夏期休暇開始
	9月21日(日)	夏期休暇終了
	22日(月)	在学生成績通知書配付
	27日(土)	春学期卒業式・学位授与式
	27日(土)	秋学期履修科目登録変更
	28日(日)	
	29日(月)	
	30日(火)	春学期終り

秋学期

秋 学 期	10月1日(水)	秋学期始め・講義開始
	4日(土)	秋学期入学式
	13日(月)	体育の日(授業日)
	31日(金)	秋学期学費納入最終日
	11月1日(土)	同志社クローバー祭 (スポーツフェスティバル)
	2日(日)	
	3日(月)	文化の日(授業日)
	24日(月)	振替休日(授業日)
	26日(水)	創立記念行事週間(休講)
	27日(木)	
	28日(金)	創立記念日(休日)
	29日(土)	
	12月23日(火)	天皇誕生日(授業日)
	25日(木)	キリスト降誕日(休日)
	28日(日)	冬期休暇開始
	2015年 1月4日(日)	冬期休暇終了
	5日(月)	講義再開
	23日(金)	創立者永眠の日
	27日(火)	講義最終日・木曜日授業振替実施日
	28日(水)	期末試験開始
	2月17日(火)	期末試験終了
	3月上旬	卒業可否発表
	3月20日(金)	秋学期卒業式・学位授与式
	21日(土)	
	22日(日)	
	25日(水)	在学生成績通知書配付
	31日(火)	秋学期終り

心 理 学 部 父 母 会 会 則

(名称)

第1条 本会は、同志社大学心理学部父母会と称する。

(目的)

第2条 本会は、同志社大学心理学部(以下「学部」という。)の教育方針に則り、教員と学部在籍する学生の父母又はこれに準ずる者(以下「学生の父母」という。)との連絡を密にし、学生の就学を支援するとともに、学部の教育研究事業を援助し、学部の充実発展に寄与することを目的とする。

(会員)

第3条 本会は、次の会員をもって組織する。

- (1) 父母会員 学生の父母
- (2) 参与会員 学部所属する専任教職員 若干名
- (3) 賛助会員 本会の趣旨に賛同し、これに援助を与える者

(事業)

第4条 本会は、その目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 学部と学生の父母との連絡を図る行事
- (2) 学生の教育、厚生、就職等に必要事業に対する援助
- (3) 学部の教育研究上、必要な施設の拡充及び学術研究に対する援助
- (4) 会報の発行及び配付
- (5) その他本会の目的を達成するために必要と認めた事業

(総会)

第5条 本会に総会を置く。総会は定期総会と臨時総会とする。

- 2 定期総会は毎年1回開催し、臨時総会は役員会の議を経て臨時に開催する。
- 3 総会は全会員をもって構成し、会長が議長となる。
- 4 総会の議事は、出席者の過半数をもって決定する。
- 5 定期総会は、次の事項を決定する。
 - (1) 役員の選出
 - (2) 会則の改正
 - (3) 事業計画、予算及び決算
 - (4) その他重要事項

(役員及び役員会)

第6条 本会は、事業推進と企画立案のため次の役員を置き、その役員をもって役員会を構成する。

- (1) 会 長 1名
- (2) 副会長 2名
- (3) 会 計 1名
- (4) 委 員 若干名
- (5) 監 事 1名

第7条 役員は、次の方法によって選任する。

- (1) 父母会員の中から選出する。
- (2) 役員は、役員会の推挙により、定期総会に諮って決定する。

第8条 役員は、次の職務を行う。

- (1) 会長は、会務を統括し、本会を代表する。
- (2) 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代行する。
- (3) 会計は、本会の会計を管理する。
- (4) 監事は、本会の会務及び会計を監査する。

第9条 役員の任期は1年とする。ただし、重任を妨げない。

第10条 役員会は、必要に応じ適宜開催し、次の事項を審議し、本会の事業を実施する。

- (1) 役員の推挙
- (2) 会則改正案の作成
- (3) 事業計画案、予算案及び決算案の作成
- (4) その他会務の運営、執行に関する事項

第11条 役員会は、緊急を要する案件は、総会に代り、審議、決定することができる。ただし、役員会で決定した事項は、総会において報告しなければならない。

第12条 役員会は、必要に応じて、この会則の施行に伴う細則、規程を定めることができる。

(運営資金)

第13条 本会の運営は、父母会員費、寄付金及びその他の収入による。

(父母会員費)

第14条 父母会員費は、学期額3,000円とする。ただし、学生が休学する場合は、父母会員費を免除する。

- 2 父母会員費は、毎学期の初めに納入しなければならない。
- 3 父母会員費の徴収は、大学に委託して行う。

(会計年度)

第15条 本会の会計年度は、毎年4月1日から翌年3月31日までとする。

(事務局及び職員)

第16条 本会の事務局を心理学部事務室内に設ける。

- 2 本会は、本会の庶務会計等の業務を処理するため、職員を置く。

附 則

この会則は、2009年7月18日から施行する。

心理学部ホームページをご活用ください！
詳しい情報を随時発信してまいります。

同志社大学心理学部

検索

<http://psych.doshisha.ac.jp/index.html>

●重要なお知らせ

「心理学部父母会」ページのログインにはパスワードの入力が必要です。パスワードは毎春号にてお知らせします。

●2014年度心理学部父母会ログインパスワード
[fobsr14] 半角英数字

「在学生の方へフォトアルバム」ページもぜひご覧ください。
お子様たちの活動写真を掲載しています。
こちらもログインにはパスワードの入力が必要です。

●2014年度心理学部フォトアルバムログインパスワード
[stphoto2014] 半角英数字



同志社大学 心理学部父母会会報 第10号

2014年6月20日

編集・発行／同志社大学心理学部父母会

〒610-0394 京都府京田辺市多々羅都谷1-3

TEL : 0774-65-8220 FAX : 0774-65-8223

E-mail : snr-fubo@mail.doshisha.ac.jp

印刷／株式会社 石田大成社



ご父母のさまざま
ご意見ご感想など
お待ちしております。
左記までご一報
ください。